

自主的環境保全活動の取り組み状況

(事業所名) ダイセルポリマー(株) 広畑工場

1 環境保全活動に関する方針等

1-1 環境保全活動に関する方針

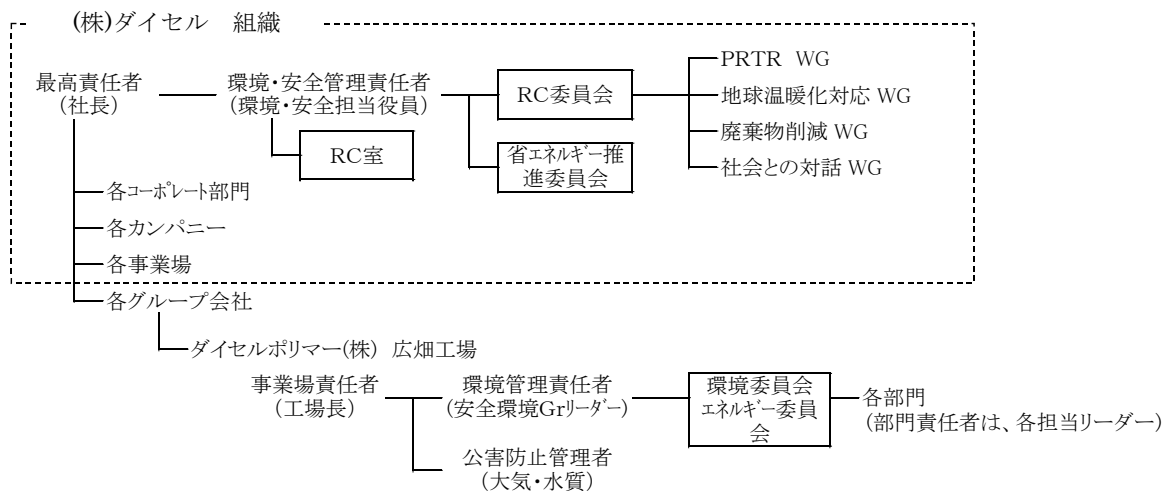
環境方針として以下の内容を定め公表している。

社会から求められる高機能かつ環境と安全に配慮した製品を供給することにより、広く産業の発展に貢献します。これを実現するために、環境方針を下記のように定めます。

1. 当工場の事業活動に係わる環境影響を常に認識/評価し環境汚染を予防し、以下の重点課題に取り組むと共に環境マネジメントシステムの継続的改善を行います。
 - ①環境負荷を軽減する新製品の開発
 - ②省エネルギー・省資源の推進
 - ③化学物質の適正管理
 - ④廃棄物の削減とリサイクルの推進
 - ⑤物流安全及び荷主としての物流省エネの推進
2. 当工場の事業活動に係わる環境関連法規制、及び当工場が同意したその他の要求事項を順守します。
3. 工場・部門別に環境目的及び目標を年度毎に設定し、達成状況を定期的にレビューします。
4. 環境マネジメントシステムに適合した行動を行うよう環境方針に沿った教育訓練を行います。

計画や年度ごとの取り組み状況については、(株)ダイセル ホームページ並びに、「CSR 報告書」で公表する。

1-2 環境保全活動に関する組織体制



2 環境保全活動の実施状況等

項目	取組結果	今後の取組計画
省エネの推進 過去5年度間のエネルギーの使用に係る原油換算原単位を年平均1%以上改善に取組む。	冷凍機更新による電力使用率削減、O P S 直 行率の改善、空気コンプレッサー1台運転、 照明のL E D化・省エネタイプ空調への更新 等の取組みにより、省エネルギーを実施した が、他のエネルギー原単位が悪化し、工場全 体として、エネルギー消費量が増え、昨年と 同程度の原単位となった。	過去5年度間のエネ ルギーの使用に係る 原油換算原単位を年 平均1%以上改善に 取組む。
省資源の推進 対前年比で、原料使用率の削減	原料使用率改善による省資源の推進を行な い、9 t / 月 (1 0 8 t / 年) の削減を行っ た。	使用率改善による省 資源の推進に取組 む。
地球温暖化ガス排出量削減 温室効果ガス排出量の換算 製造量当り排出量 (対 2005 年) 削減の取組み	燃料転換・省エネの推進により温室効果ガス 排出量の換算製造量当り排出量 (対 2005 年) を、3. 8 %削減した。	継続して削減に努め る。
大気汚染物質、水質汚濁物 質排出量監視 現状で十分低い値を維持で きているため、現状維持の 監視を行う。	環境監視計器による監視体制を維持し、大気 汚染物質、水質汚濁物質の排出量について適 正に維持されている事を確認している。	継続して実施する。 監視計器として、T O C 計を増設する。
廃棄物適正管理 ゼロエミッションへの再挑 戦への下地作りと、リサイ クル率回復を図る。	処理委託先での適切処理の確認を実施した。 又、埋め立て率：4. 3 %となった。 リサイクル率：9 3. 4 %にとどまった。	リサイクルアイテム の探求によりリサイ クル率をアップす る。
化学物質適正管理 S D S の完全収集	新規取扱化学物質のS D S を完全に収集を行 った。(7 9 物質) 制改訂から10年以上経過したS D S につい て再度提出依頼を行い、S D S の最新化を行 った。	継続して実施する。
環境コミュニケーション 環境情報の公開に努める。	2014年版環境・安全報告書を作成し、ご来客 等に配布した。又、日本化学工場会主催の、 兵庫地区地域対話に参画し、情報公開に努め た。 ダイセルグループ会社として(株)ダイセルの 環境・安全報告書にデーターを記載し、ホー ムページに掲載している。	継続して実施する。
環境教育 環境方針に基づく環境保全 に関する従業員教育の実施	環境教育計画に基づく教育を実施した。 事業所R C大会を開催し、全従業員へ環境情 報について教育を行った。	継続して実施する。